
助成事業における課題解決のための エビデンスの産出と活用

2019年11月
JANPIA プログラムオフィサー研修

00. はじめに

プロフィール

西郷 民紗 Misa Saigo

(社会福祉士・日本評価学会認定評価士)

大学で児童福祉を学んだ後、民間企業・大学院を経て、
公益財団法人の子ども分野のプログラムオフィサー
助成事業 / 調査研究 / 児童福祉法等に関する政策提言

2017年より現職 **HITOTOWA Inc.** 執行役員

児童福祉分野の調査研究 / まちづくり分野でのコミュニティづくり

- ・ Early Intervention 勉強会にて、反省的实践家を育てる場として
「エビデンスを”つかう”を学ぶ」ワークショップを企画実施（東京・神戸・名古屋）
- ・ ”What works now ? Evidence-informed policy and practice” の翻訳プロジェクト等へ参画

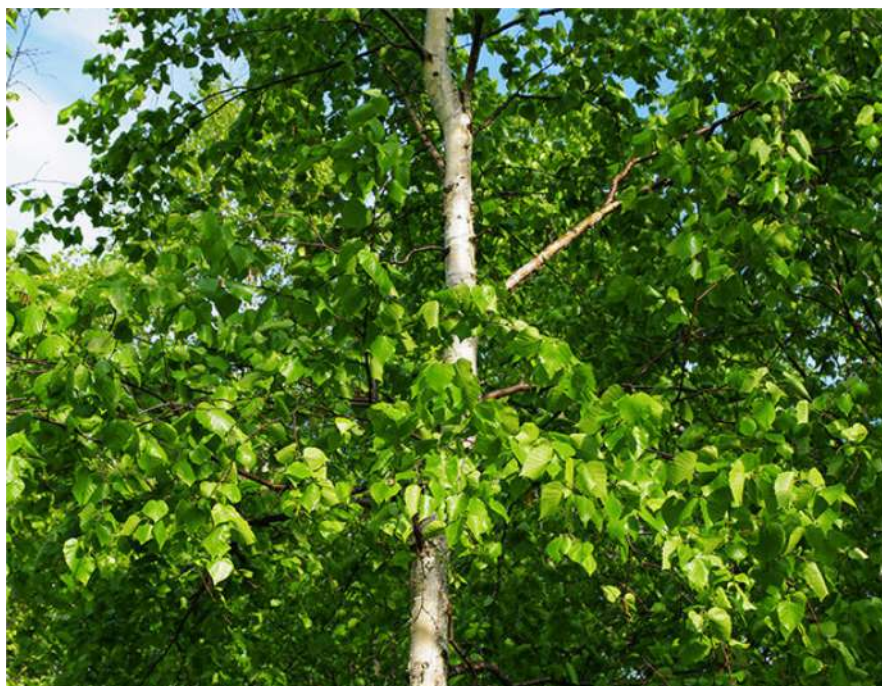
00. はじめに

今日お伝えしたいこと

- 個々の事業だけでなく事業分野を単位とした評価が重要
個々の成果追求だけでは事業分野として成長するとは限らない
- 事業分野として課題解決を促すにはエビデンスが有用
社会的に重要な理論的仮説を検証して知の構築・利用をする
- エビデンスがある場合は、エビデンスを参照して有効な取組みを考える
エビデンスがない場合は、理論的仮説を検証してエビデンスをつくる
- 評価指標に意義があり、妥当性が高いことが重要
事業の受益者など多様なステークホルダーとアウトカムを議論をする
- より良い取組みのためにエビデンスが使いやすくなる環境整備が必要
→実務家のエビデンス・リテラシーの向上と容易なアクセス環境

1. 評価の3つの視座

01. 評価の3つの視座



木 = 事業

01. 評価の3つの視座



森＝事業分野



生態系 = 社会システム

評価の3つの視座

社会システム（社会構造）



事業分野（複数の組織の取組み全体）



事業（個々の組織の事業）

01. 評価の3つの視座

助成プログラムの流れ

1. データや事実をもとに**問題を発見・定義**する（価値判断を伴う）
2. その問題を引き起こす**社会の構造的な課題**を捉える
3. 問題を解決しようとする**取組み全体における課題**を整理する
4. 助成事業の方針を決定して、**事業や組織を支援**する

01. 評価の3つの視座

助成プログラムの流れ

1. データや事実をもとに問題を発見・定義する（価値判断を伴う）
2. その問題を引き起こす**社会の構造的な課題**を捉える **①社会システムレベル**
3. 問題を解決しようとする**取組み全体における課題**を整理する **②事業分野レベル**
4. 助成事業の方針を決定して、**事業や組織を支援**する **③事業レベル**

- ・ **社会システム→事業分野→事業の3つの視座が重要**
- ・ **事業レベルの成果追求だけでは、事業分野や社会システムの課題の根本解決につながらない**（ネットワーク構築、協力、集団学習等が重要）

評価の3つの視座

社会システム（社会構造）



事業分野（複数の組織の取組み全体）



取組み全体としての知の構築・活用は
個々の事業の改善につながる

事業（個々の組織の事業）



2. エビデンスとは

02. エビデンスとは何か？

エビデンスとは何か？

データ？

ファクト？

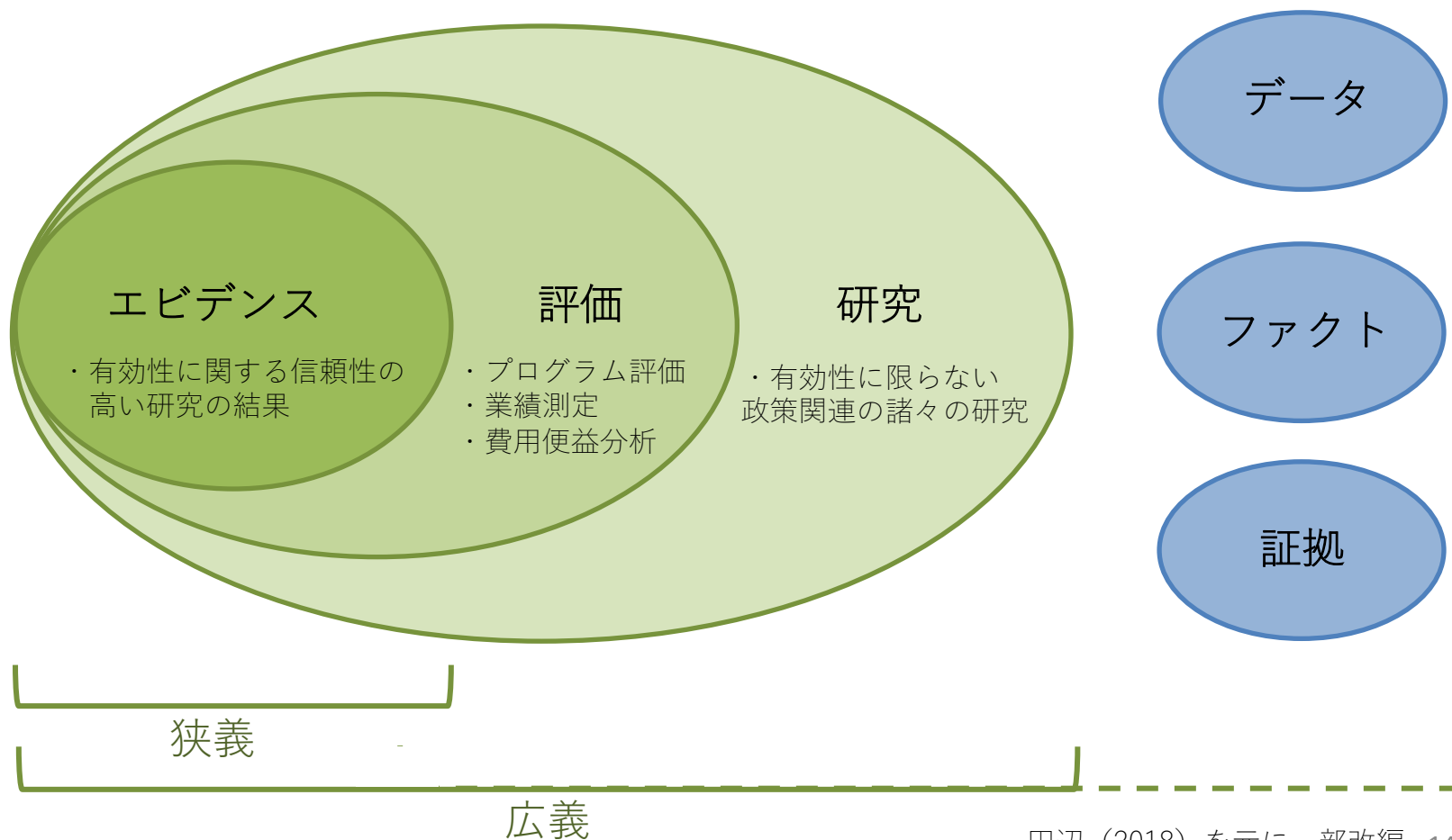
証拠？

臨床結果などの科学的根拠？

領収書？

02. エビデンスとは何か？

日本における“エビデンス”の捉えられ方



02. エビデンスとは何か？

エビデンスとは

「ある介入があるアウトカムに対して所期の効果を及ぼす」

という因果命題に関する、実証的検討の結果、

つまり、その因果命題が真である、あるいは、偽であるという言明

(津富, 2010)

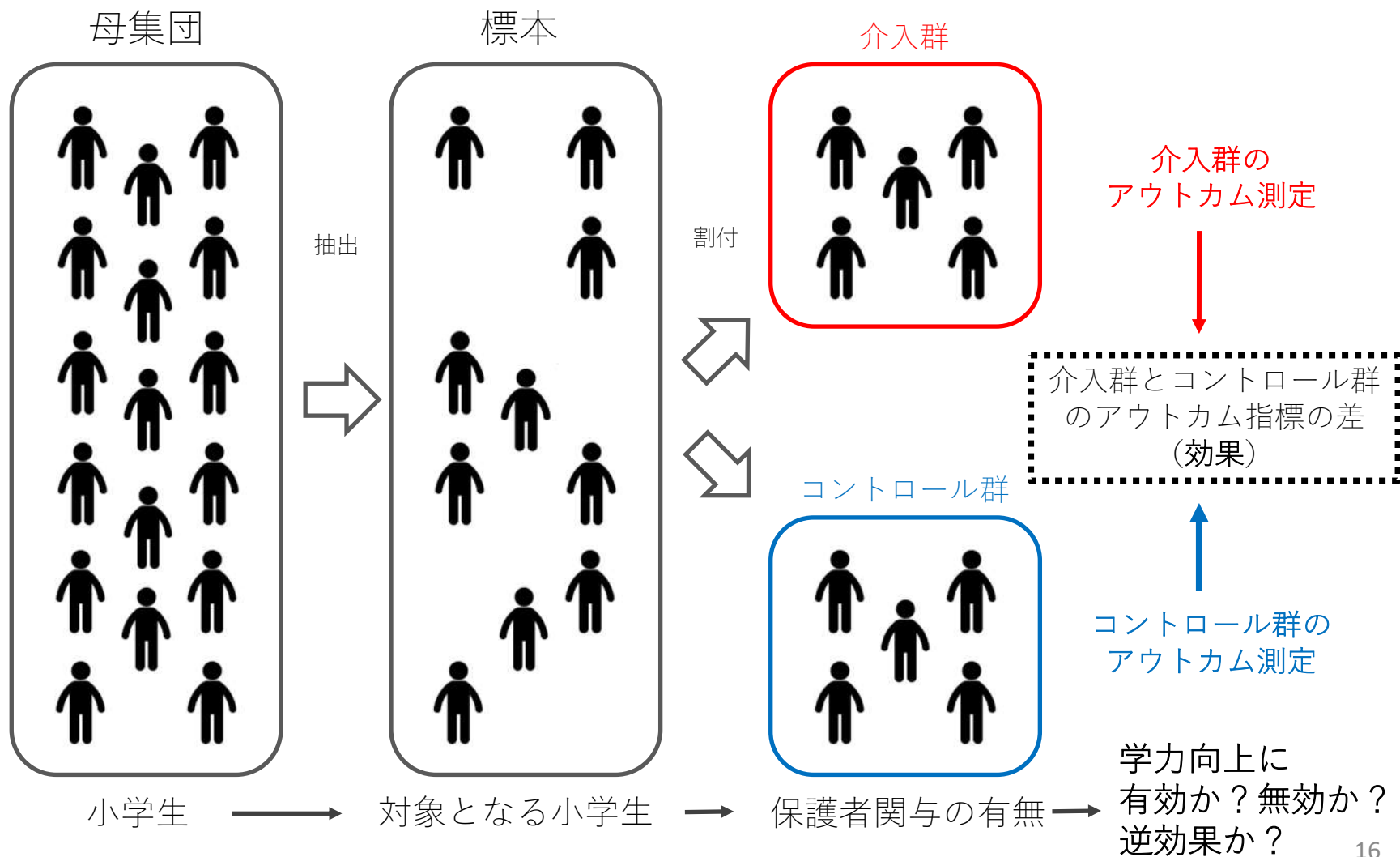


ある介入があるアウトカムに、有効か、無効か、逆効果か？

信頼性の高い研究から得られた介入と効果の因果関係の実証結果 ≠ 統計・データ・ファクト

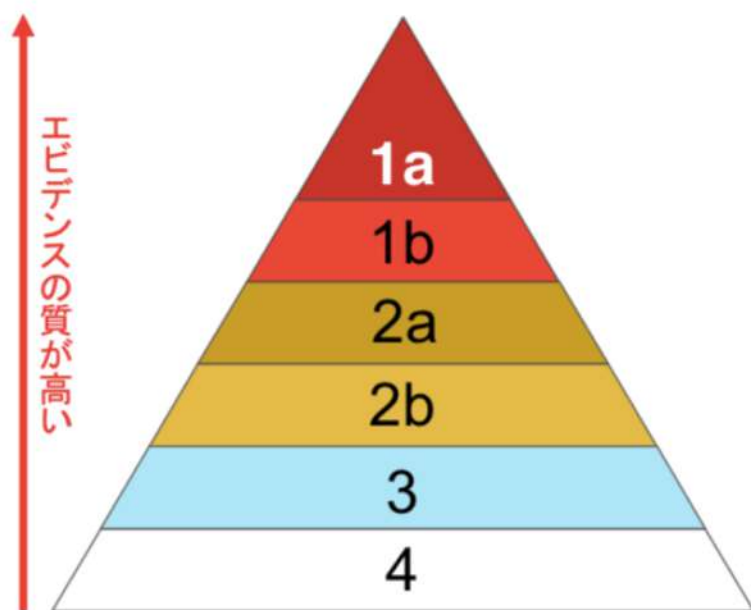
02. エビデンスとは何か？

(例) Approaches to parent involvement for improving the academic performance of Elementary School- aged children



02. エビデンスとは何か？

エビデンスレベル：研究デザインの厳密性を示したもの



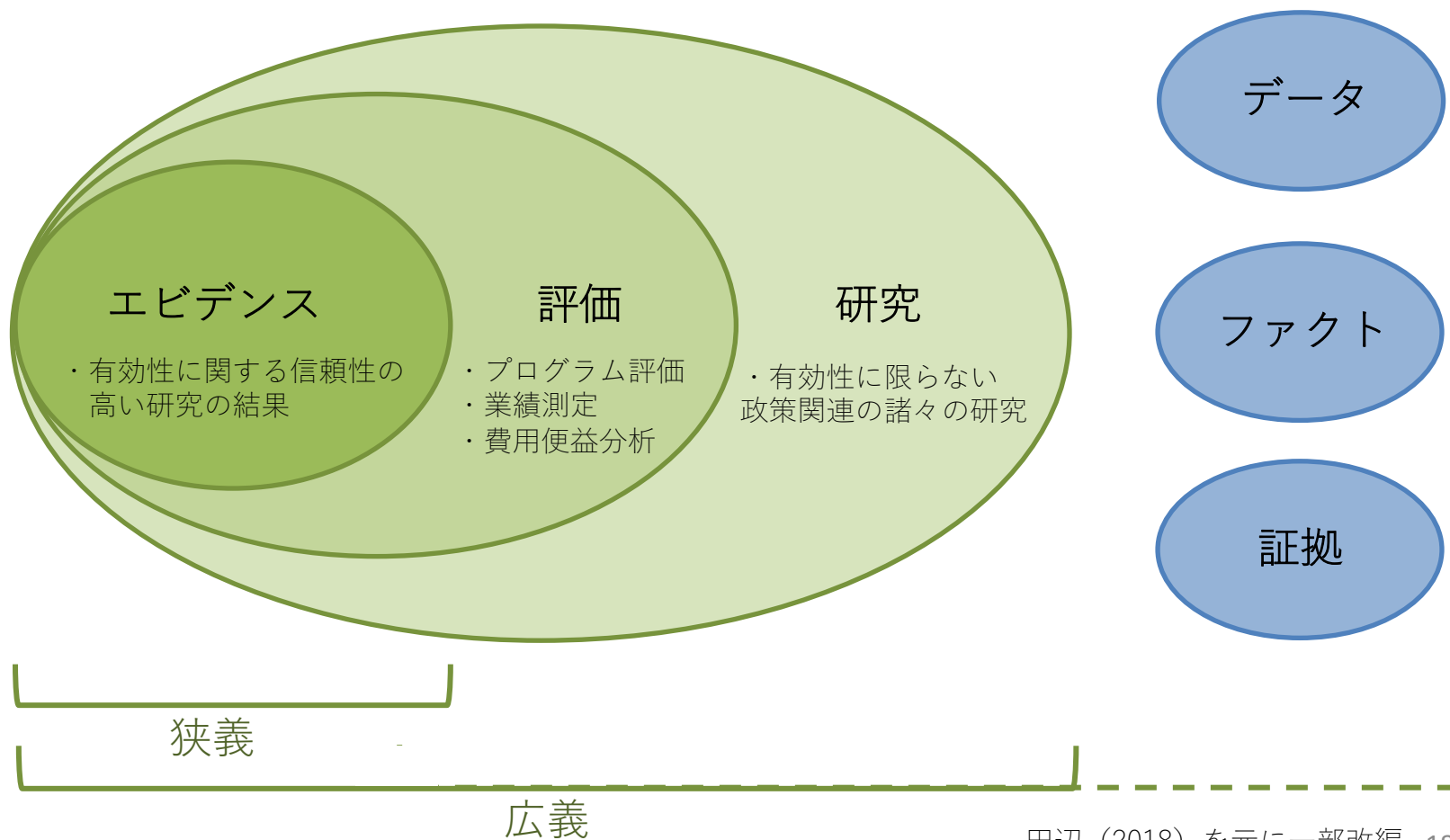
レベル	内容	手法の例
1a	RCTのメタアナリシス、系統的レビュー	複数のRCTの系統的レビュー
1b	少なくとも1つのRCT	RCT(フィールド実験)
2a	少なくとも1つの準実験	自然実験、差の差推定、回帰分断デザイン、操作変数法
2b	少なくとも1つの非実験的研究	回帰分析、コホート研究
3	比較試験、相関研究、記述的研究	前後比較、ベンチマーキング
4	専門家や実務家の意見	検討委員会による討議、パブリックコメント

三菱リサーチ&コンサルティング(2016)

ただし、研究デザインだけで、一般化可能性や推奨度まで担保される訳ではないため、**批判的吟味/検討が必要**

02. エビデンスとは何か？

日本における“エビデンス”の捉えられ方



3. エビデンスを利用する目的

03. エビデンスを利用する目的

エビデンスを利用する最大の目的は、

1. 介入によって**害を与えない**ため

2. 介入の**根拠を担保する**ため

津富 (2018)

03. エビデンスを利用する目的

エビデンスを利用する最大の目的は、

1. 介入によって**害を与えない**ため

→「良きこと」として広まったことが「有害」だったという失敗
(例) 乳幼児のうつ伏せ寝・スケアードストレート・瀉血

2. 介入の**根拠を担保**するため

→できるだけ最善のことにするということ

介入に”効果がある”という前提は何に基づくものか？
経験だけに依らずに、介入を考える“軸”を提供しうるもの

津富 (2018)

4. エビデンスの活用とは

04. エビデンスの活用とは？

EBM (Evidence-based Medicine) エビデンスをつかう 5 ステップ

STEP 1 : 問題の定式化 (PICO)

STEP 2 : 問題に関する情報収集

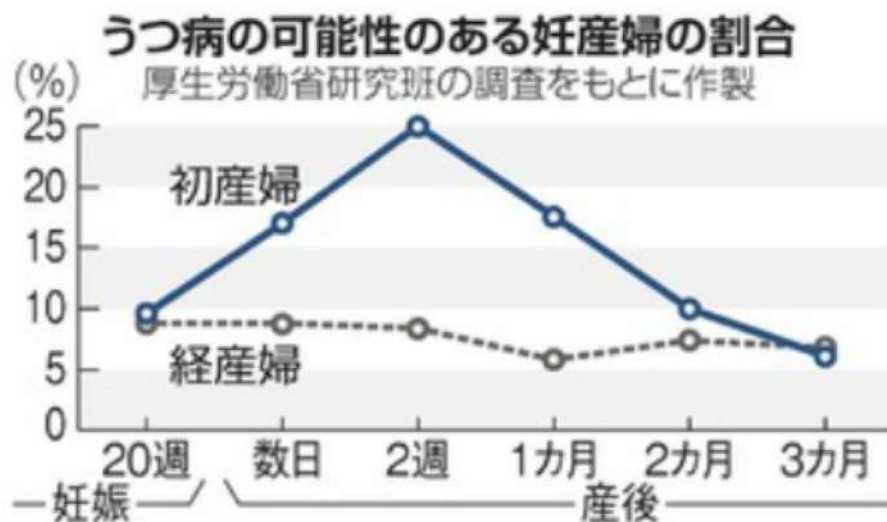
STEP 3 : 情報の批判的吟味

STEP 4 : 問題への適用

STEP 5 : 1～4のステップの評価

04. エビデンスの活用とは？

例) 産後うつの予防



■ 産後1年までに死亡した妊産婦の主な死因と人数	自殺	102
	がん	75
	心疾患	28
	脳神経疾患	24
	出血	23
	羊水塞栓(そくせん)	13
	妊娠高血圧症候群	11
[厚生労働省研究班の資料をもとに作製]		

朝日新聞デジタル2018年9月5日

どんな介入が有効か？

04. エビデンスの活用とは？

STEP 1：問題の定式化（PICO）

Patient：どんな相手に

Intervention：どのような介入をしたら

Comparison：どんな取組みと比べ

Outcome：どうなるか

04. エビデンスの活用とは？

STEP 1：問題の定式化（PICO）

Patient：産後うつリスクのある母親に

Intervention：どのような介入をしたら （または「Aという介入をしたら」）

Comparison：一般的なケアと比べ

Outcome：産後うつが下がるか？保護者のストレスが減るか？

幸せに暮らせるか？

04. エビデンスの活用とは？

STEP 2：情報の収集



まずは、系統的レビュー（systematic review）から探す

04. エビデンスの活用とは？

STEP 3：情報の批判的吟味


PDF


Info



Psychosocial and psychological interventions for preventing postpartum depression

[New search](#) [Conclusions changed](#) [Review](#) [Intervention](#)

[Cindy-Lee Dennis](#) , [Therese Dowswell](#)

First published: 28 February 2013

Editorial Group: [Cochrane Pregnancy and Childbirth Group](#)

DOI: 10.1002/14651858.CD001134.pub3 [View/save citation](#)

Cited by (CrossRef): 28 articles [Check for updates](#) [Citation tools](#)

 35

Abstract

Background

Epidemiological studies and meta-analyses of predictive studies have consistently demonstrated the importance of psychosocial and psychological variables as postpartum depression risk factors. While interventions based on these variables may be effective treatment strategies, theoretically they may also be used in pregnancy and the early postpartum period to prevent postpartum depression.

 [English](#) | [French](#) | [Chinese](#) | [Spanish; Castilian](#)

産後うつ予防のための
心理社会的・心理学的介入の効果に関する研究

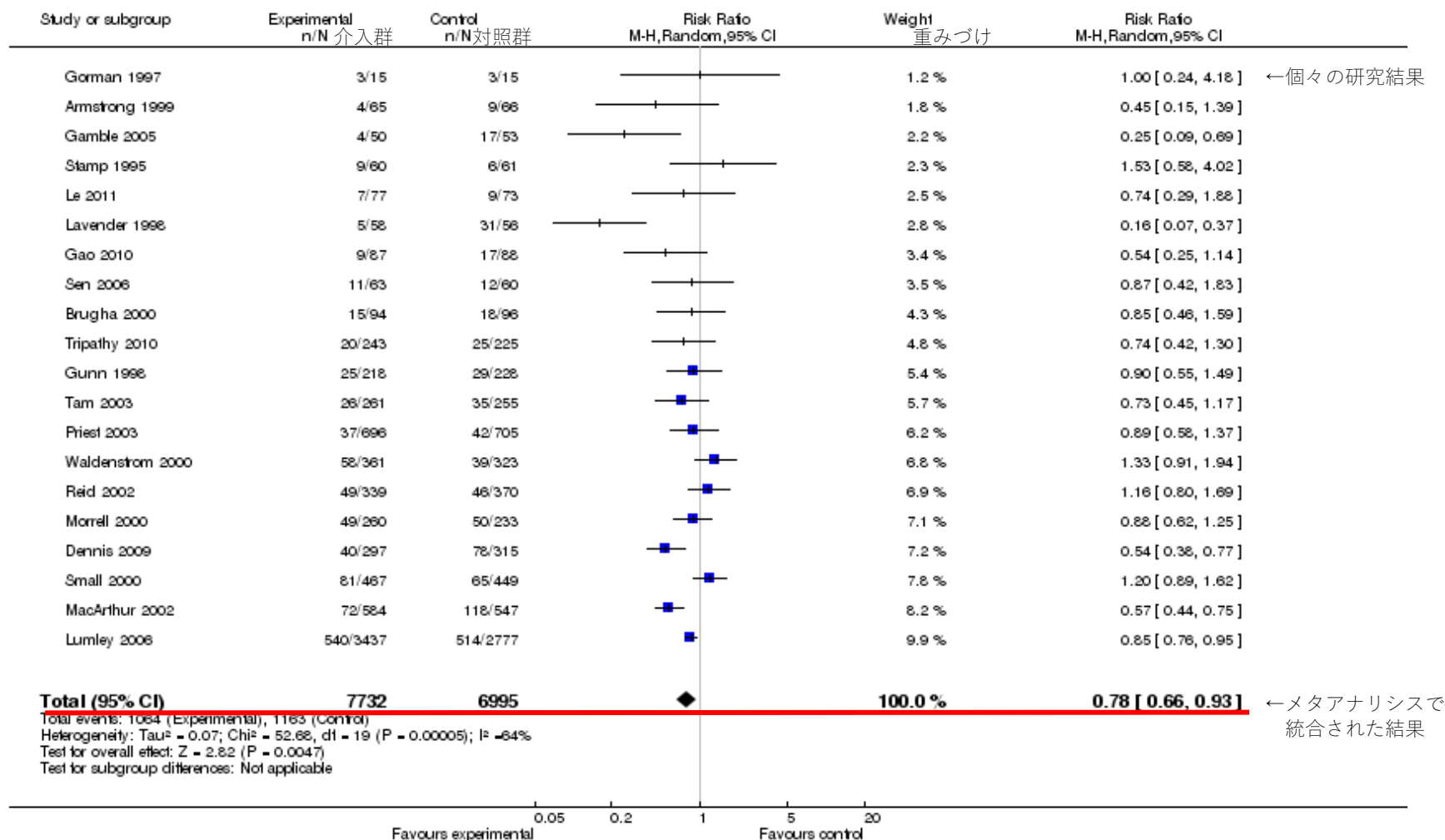
約17,000人の女性を含む
28件の質の高い研究を統合した結果

Psychosocial and psychological interventions for preventing postpartum depression

Review: Psychosocial and psychological interventions for preventing postpartum depression

Comparison: 1 All psychosocial and psychological interventions versus usual care - various study outcomes

Outcome: 1 Depressive symptomatology at final study assessment



04. エビデンスの活用とは？

心理社会的・心理学的介入を受けた女性は、
受けなかった女性と比べて、
有意に産後うつの発症が抑えられていたという結果

なかでも、特に有効だった介入のタイプ

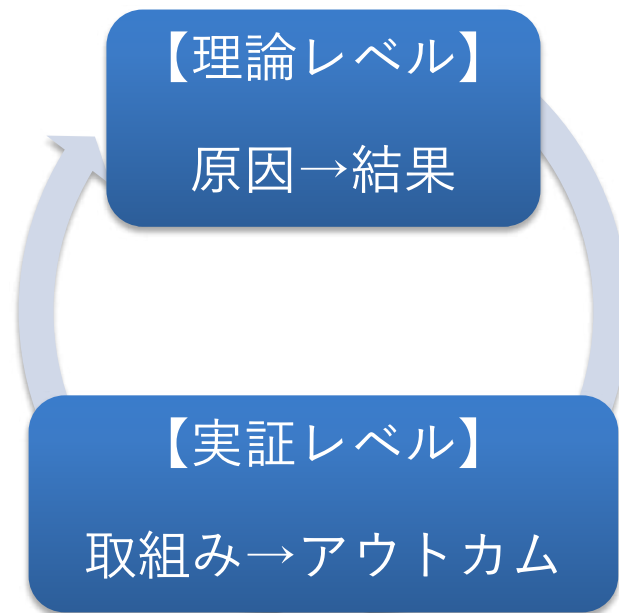
- (1) 対人関係療法（心理療法）
- (2) 助産師や保健師による産褥期の家庭訪問
- (3) ピアサポート

エビデンスがある場合は、
エビデンスを参照して有効な取組みを思考する

※産後うつの予防的介入についての研究は本研究以外にも多数あります

04. エビデンスの活用とは？

理論と実証の往還のサイクル



「理論をもとに、取組みを考える」
「取組みをやってみて、理論を考える」
というサイクルを回しながら実践する

04. エビデンスの活用とは？

一方、エビデンスがないときは、
理論的仮説を検証してエビデンスをつくる

ただし、厳密な評価には、コストも時間も手間もかかるため、
社会にとって重要な問題に取り組むことが必要

たとえば、**優先的に検証すべきテーマ**のリストをつくり、
特定の理論に基づいた介入に複数の組織で試験的に取り組み、
有効性を検証することはできないか？

エビデンスがない場合は、
理論的仮説を検証してエビデンスをつくる

04. エビデンスの活用とは？

(例) アタッチメント理論：

ジョン・ボウルヴィ（イギリスの精神医学者）が提唱したもの。

アタッチメントとは、「比較的少数の養育者に安らぎ、サポート、養育、保護を求める幼児の性向」であるとし、幼児のメンタルヘルスに何よりも不可欠なのは、「安定した状態で愛情を持って子育てに取り組む養育者」であるとした。



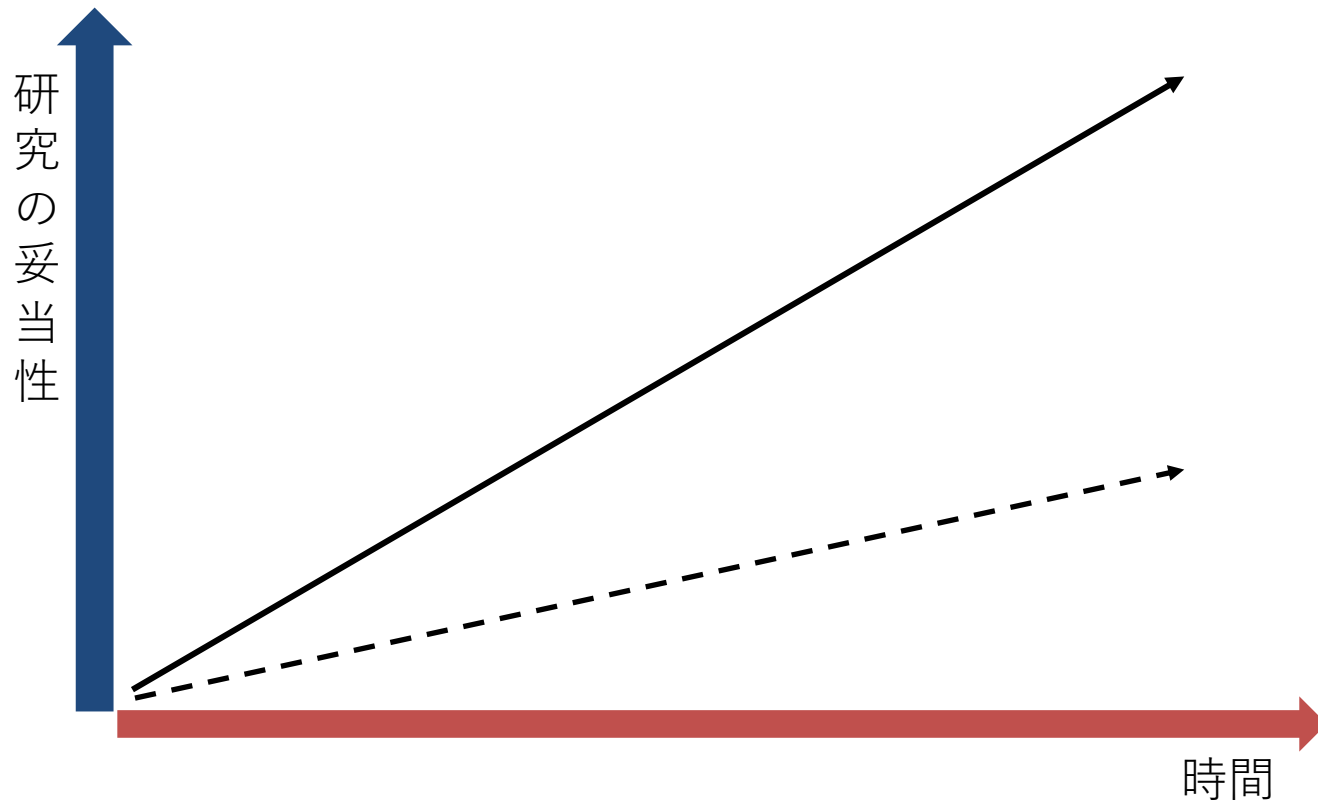
ブカレスト早期介入プロジェクト (Bucharest Early Intervention Project)

〈背景〉

- ・ ルーマニアのチャウシェスク政権が経済生産性を求めて行った人口増計画
 - ・ 子どもは爆発的に増えたが、多くの家庭は貧しく、児童遺棄が蔓延、子どもを施設に預けることが奨励された
 - ・ 1989年に政権が崩壊、10万人が施設に収容
- #### 〈実験〉
- ・ 施設に収容されていた子どもをランダムに里親養育Gと施設養育Gへ措置して追跡調査
 - ・ 里親Gはアタッチメント障害等の兆候が減少

04. エビデンスの活用とは？

理論的仮説検証



社会的に重要な理論的仮説を検証し、知見を積み上げて行くことが重要

04. エビデンスの活用とは？

研究の良さを見分ける 4 つの妥当性

研究の ステップ	各ステップの 良さ	概要	系統 誤差	偶然 誤差
1. 標本抽出	外的妥当性 (母集団を推定できるか？)	他の時間、対象、場所 へ 一般化できる程度	○	○
2. 測定	構成概念妥当性 (測るべきものを 測っているか？)	構成概念(抽象)を忠実に 操作概念(具体)に移 している程度	○	○
3. デザイン	内的妥当性 (インパクトを正しく 求められている か？)	因果関係の吟味 を偏り なく行なっている程度	○	
4. 分析	統計的結論妥当性 (アウトカムと介入 の関係の有無に関 する結論が正しい か？)	仮説検定 を正しく行っ ている程度		○

5. 評価指標

評価指標を設定するときに重要なのは、

1. 評価指標に意義があること

→事業の受益者やステークホルダーとアウトカムについての議論と合意が必要、アウトカム指標は複数あった方がいい

2. 評価指標の妥当性が高いこと

→目指すべきアウトカムをきちんと測れているかどうか
抽象的な構成概念を具体的な操作概念に移せているか？

05. 評価指標

アウトカム指標の例①産後うつ

産後うつのハイリスク女性に対するピアサポートの効果：複数地域におけるランダム化比較試験

1. エジンバラ産後うつ病質問票
2. うつの臨床的構造化面接法
3. 状態-特性不安検査
4. UCLA孤独感尺度
5. 保健サービスの利用

Dennis(2009) Effect of peer support on prevention of postnatal depression among high risk women: multisite randomised controlled trial

アウトカム指標の例②ペアレント・トレーニング

日本社会におけるトリプルP前向き子育てプログラムの有効性と社会的妥当性の検討

1. アイバーク子どもの行動評価尺度
2. 子どもの強さと困難さアンケート (SDQ)
3. 子育てスケール
4. 保護者の問題チェックリスト
5. 関係性指数 等

Matsumoto (2012) Investigation of the Effectiveness and Social Validity of the Triple P Positive Parenting Program in Japanese Society

05. 評価指標

アウトカム指標の例③産後うつ予防のレビュー

産後うつの予防のための心理的・心理社会的介入

Primary Outcome

- 1.産後のうつ病（さまざまに定義および測定されたもの：エジンバラ産後うつ病質問票等）

Secondary Outcome

- 2.自傷行為、自殺企図を含む妊産婦死亡率および重篤な罹患率
- 3.母子の愛着
- 4.不安
- 5.母親のストレス
- 6.保護者のストレス
- 7.母親が受けている社会的サポート
- 8.提供されているケアへの不満
- 9.予防接種の有無、偶発的傷害または非偶発的傷害を含む乳児の健康パラメーター
- 10.幼児の発達評価（さまざまに定義されたもの）
- 11.児童虐待および/または放置
- 12.夫婦間の不和

Dennis(2009)Psychosocial and psychological interventions for preventing postpartum depression

05. 評価指標

アウトカム指標の例④保護された子どもの親族養育のレビュー

虐待により家庭から保護された子どもの安全と養育の永続性とウェルビーイングのための親族養育

子どもの行動発達：問題行動、適応行動

子どもの精神衛生：精神疾患、精神病理学的状況、ウェルビーイング

措置の安定性：措置数、再措置数、措置期間

養育の永続性：再統合、養子縁組、後見

学習習熟度：卒業、成績、試験の点数

家族関係：問題解決、寛容性、参加、衝突

サービス利用度：精神衛生サービス、里親支援グループ、家族セラピー

再虐待：事実として認定された虐待、施設内虐待

Winokur(2009) Kinship care for the safety, permanency, and well-being of children removed from the home for maltreatment

6. 助成プログラムにおけるエビデンス活用

活用にあたって①

“in の知識” と “of の知識”が必要

in の知識

knowledge in process

プロセスに投入される知識

問題の解決策の内容に対して
提供される知識 等

of の知識

knowledge of process

プロセスに関する知識

問題の発見・定義、取組み設計、
決定・実施・評価の仕組み 等

活用にあたって②

エビデンスは介入戦略として重要だが、
過剰な期待をしないこと（実用的限界の認識）

- × 紛争を止めるべきか？
- × 施設の修繕に効果はあるか？
- × 複合的問題の解決策は？

エビデンスは、常に役に立つものではないが、
論争的な問いへの指針を示唆してくれるもの

06. 助成プログラムにおけるエビデンス活用

I. 助成事業の方針を決定するとき

取組むべき課題において、何がどこまで分かっているか？
何を優先して取組むべきか？何を検証すべきか？

II. 審査時の介入根拠を理解するとき

何をアウトカムに、どんな取組みをするのか？理論はあるか？

III. 対立する意見がある場合に、意思決定する必要があるとき

取組みを標準化したり、選択する必要がある場合、
質の高い情報に基づいて議論し、民主的に決定する

06. 助成プログラムにおけるエビデンス活用

よくある落とし穴

①自らの主張に近い知見を集めて正当化に利用すること

→問いを立て、知見をもとにどうすべきか考える

②“エビデンスに基づく実践”による取組み/ケアの過度な標準化

→エビデンスを環境と価値観と統合し、専門家の経験を踏まえる

③1つの一次研究のみを見ること

→得られた知見を先行研究と比べ、全体の中に位置付ける

④エビデンスのあるプログラム以外に資金を出さないこと

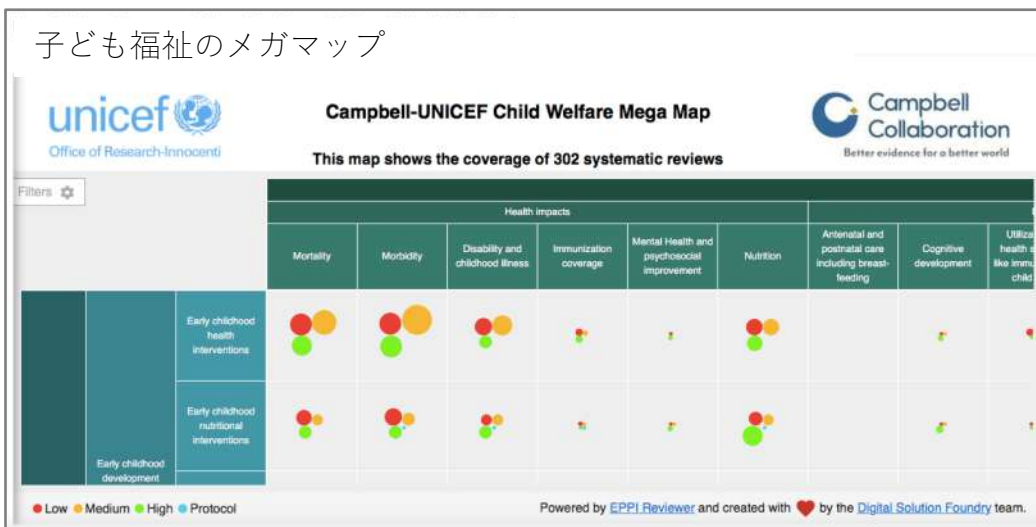
→社会にとって必要なエビデンスの産出に資金をつける

- ・有効な結果にインセンティブをつけると、不正が起こりやすくなる
- ・エビデンスの量や質は、それまでの予算配分の影響を受けるため、資金配分を受けてこなかった取組みは悪循環に陥る
- ・実証された理論をベースに実践をする ≠ エビデンスのある特定のプログラム

06. 助成プログラムにおけるエビデンス活用

より良い取組みのためにエビデンスを使いやすい環境整備が必要 実務家の**エビデンス・リテラシーの向上**と容易な**アクセス環境**

子ども福祉のメガマップ



https://campbellcollaboration.org/child_welfare_megamap_28062018.html

The screenshot shows the Early Intervention Foundation website. It features a search bar and a filter content section. The filter content section includes checkboxes for various issues: Attachment, Child behaviour, Child sex abuse & exploitation, Childcare & preschool education, Cognitive development, and Domestic violence & abuse. Below the filter content, there are search results for "Improving social and emotional learning in primary schools: Guidance report" by Matthew van Poortvliet, Dr Aleisha Clarke and Jean Gross CBE. The results are categorized by "Sex & relationships education", "Social & emotional skills", "Implementing programmes", and "Workforce & practice".

The infographic from Cochrane UK discusses the benefits of influenza vaccination for children. It states that 3 years to 16 years old children, inactivated vaccine is influenza and influenza-like illness (ILI) to reduce. Influenza vaccination from 1 year to prevent is 5 people, ILI to prevent is 12 people of children's inactivated vaccine is necessary. Live vaccine, also influenza and ILI to reduce the possibility. Influenza vaccination from 1 year to prevent is 7 people, ILI to prevent is 20 people of children's live vaccine is necessary. Other conditions, or 2 years below children's vaccine effect, adverse events are not clear.

コクランレビュー：41試験を統合し、200,000人の子どものために、1回のインフルエンザの流行期の間、インフルエンザワクチン接種群とプラセボ群、もしくは何もしない群について比較した。

【翻訳実施】 井上 同知 [2018.5.1]
evidentlycochrane.org | @CochraneUK | #CochraneEvidence #E3HealthChoices <http://bit.ly/2C1D8By>

<https://www.cochrane.org/ja/evidence>

The infographic from Campbell Collaboration discusses the effectiveness of school-based sexual abuse prevention programs. It states that school-based sexual abuse prevention programs are effective in reducing sexual abuse and increasing knowledge about sexual abuse. The infographic includes a photo of a child covering their face with their hands.

学校で行われる性的虐待予防プログラムは、子どもの防御行動を強化し、性的虐待に関する知識を増加させる

性的虐待を予防するための学校における教育プログラムは、(短期的には) 初等教育児童の性的虐待に関する知識と、この種の虐待から自己を守る行動を増加させる。

このレビューは何を検証しているのか？
子どもに対する性的虐待は、その規模と結果の両方の点で、重要なグローバルな問題である。学校での教育プログラムの実施が、もっとも広く用いられる一次予防の方策であった。1980年代以降、こうしたプログラムが学校で教示されてきたが、その有効性は継続的な検証を必要とする。

<https://crimrc.ryukoku.ac.jp/campbell/>

07. まとめ

- 個々の事業だけでなく事業分野を単位とした評価が重要
個々の成果追求だけでは事業分野として成長するとは限らない
- 事業分野として課題解決を促すにはエビデンスが有用
社会的に重要な理論的仮説を検証して知の構築・利用をする
- エビデンスがある場合は、エビデンスを参照して有効な取組みを考える
エビデンスがない場合は、理論的仮説を検証してエビデンスをつくる
- 評価指標に意義があり、妥当性が高いことが重要
事業の受益者など多様なステークホルダーとアウトカムを議論をする
- より良い取組みのためにエビデンスを使いやすい環境整備が必要
→実務家のエビデンス・リテラシーの向上と容易なアクセス環境

08. 参考資料

エビデンスを「つかう」を学ぶ入門ワークショップ 講義録

なぜ、エビデンスを「つかう」のか？「つかう」とは何か？対人サービス分野におけるエビデンスに基づく実践を考える

https://drive.google.com/file/d/1q35MPExrNy7aREuVnKySop776u4dvGYe/view?fbclid=IwAR0gEcBVROYhn7O_1GKOARW4GxVkvGUDufDBXHBKNKYeLG5wuO_JuxNdmDgE



←医療専門職のための研究論文の読み方-批判的吟味がわかるポケットガイド
エビデンス・リテラシーを身につけるための本

What Works Now? →
Evidence-Informed Policy and Practice
翻訳プロジェクト進行中



エビデンスを「つかう」を学ぶ入門ワークショップ
講義録
なぜ、エビデンスを「つかう」のか？
「つかう」とは何か？

対人サービス分野におけるエビデンスに基づく実践を考える

エビデンスを「つかう」を学ぶ入門ワークショップ 2018
講師 津富宏先生
主催: Early Intervention 勉強会

ご静聴ありがとうございました。

西郷 民紗
(saigomisa@hitotowa.jp)